



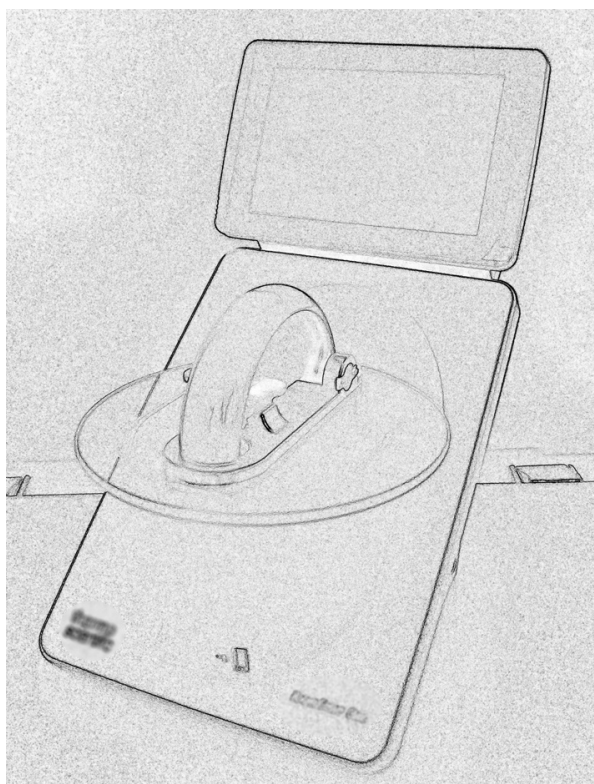
島根大学研究・学術情報本部総合科学研究支援センター

< センター通信 >

第 50 号

2026(令和 8)年 1 月発行

Interdisciplinary Center for Science Research, Shimane University



記事内容

◇ 記事内容	1
◇ 総合科学研究支援センター活動概要報告	
遺伝子機能解析部門	2
実験動物部門	5
生体情報・RI 実験部門	8
物質機能分析部門	11
◇ 編集後記	14

<設備・機器の修理や新設>

部門 website に機器一覧，機器オンライン予約，お知らせ，申請書類ファイル，学術セミナー，技術講習会，公開講座・講演会，行事などの情報が掲載されています (<http://shimane-u.org/index.htm>)。最新情報を随時更新しています。ぜひご覧ください。

本年度より共同利用機器の新しいオンライン予約システムの運用が開始されました。ご利用の際は，島根大学の Microsoft 365 アカウントへのサインインが必要です。また，機器のマニュアルをご覧ください。いただくには，利用代表者のユーザーID およびパスワードが必要です。詳細は遺伝子機能解析部門事務室までお問い合わせください。

元素分析装置付デジタルマイクロスコープ KEYENCE VHX-X1 が共同利用機器に導入されました (<https://shimane-u.org/kiki/m108.htm>)。

当部門は中国地方バイオネットワーク連絡会議における島根大学の窓口業務および共焦点レーザー顕微鏡受託解析サービスを担当しています。島根大学の構成員は，中国地方の5国立大学法人の遺伝子関連施設が実施している受託サービスを特別料金で利用することができます。詳細はこちら (<https://chugoku-bionet.hiroshima-u.ac.jp/index.html>) をご覧下さい。

<行事>

利用者説明会，教育訓練，談話会を開催しました。

令和7年10月29日（水）

「2025年度 遺伝子機能解析部門利用者説明会（第3回）およびDNA シークエンサー利用説明会」

令和7年11月11日（火），12月22日（月），12月24日（水）

「放射線業務従事者新規登録者教育訓練」

*11月11日と12月22日・24日の二回実施

令和7年12月3日（水）

「DNA シークエンサー利用説明会」

令和7年12月18日（木）

「2025年度 遺伝子機能解析部門機器談話会（第1回）」

<技術講習会開催>

第197回 2025年9月26日（金）

「分析用 HPLC（日本分光）」取扱説明会」

第198回 2025年12月1日（月）～24日（水）

「オールインワン蛍光顕微鏡（KEYENCE BZ-X700）操作説明会 16」

第199回 2025年11月20日（木）

「TEDA によるシームレスクローニング実験講習会」

<セミナー開催>

令和7年7月11日（金）

第281回 遺伝子機能解析部門セミナー

（第408回 細胞工学会講演会）

演題1部 小豆あん粒子が腸内環境に及ぼす影響

福島 道広 氏（帯広畜産大学生命・食料科学研究部門）

演題2部 隠れ脂肪肝と胆汁酸代謝

石塚 敏 氏（北海道大学大学院農学研究院）

演題3部 ビタミンDの新たな可能性を探る：カイコ発現とGC/MS分析の応用

佐藤 匡央 氏（九州大学大学院農学研究院）

令和7年9月26日（金）

第282回 遺伝子機能解析部門セミナー

（第409回 細胞工学会講演会）

演題 CRISPR/Cas9によるエピゲノム編集技術開発と花成制御

賀屋 秀隆 氏（愛媛大学大学院農学研究科）

令和7年10月1日（水）

第283回 遺伝子機能解析部門セミナー

（第410回 細胞工学会講演会）

演題 植物ペプチドホルモン研究のこれまでとこれから

篠原 秀文 氏（福井県立大・生物資源学部）

令和7年11月18日（火）

第284回 遺伝子機能解析部門セミナー

（第411回 細胞工学会講演会）

演題 Probing genome-wide gene network to elucidate mode of action of chemotherapeutic drug combination

Ee-Sin Chen 氏（シンガポール国立大学生化学部）

令和7年12月12日（金）

第285回 遺伝子機能解析部門セミナー

（第412回 細胞工学会講演会）

演題 共同利用機器管理の喜怒哀楽とハクサイ遺伝子探索の現場から

林田 信明 氏（信州大学繊維学部）

令和7年12月23日（火）

第286回 遺伝子機能解析部門セミナー

（第413回 細胞工学会講演会）

演題 遺伝子組み換えバイオセンサー動物を用いた環境毒性のアセスメント

工藤 哲大 氏（英国エクセター大学、バイオサイエンス学部）

<会議等参加>

令和7年7月19日（土）

第17回 遺伝子組換え実験安全管理研修会（オンライン参加，運営従事）

令和7年9月5日（金）

令和7年度 大学等における放射線安全管理研修会（オンライン参加）

令和7年11月14日（金）

第41回 遺伝子研究安全管理協議会総会・安全研修会（オンライン参加）

<その他>

・原著論文

令和7年9月25日（木）

Kota Monden, Takamasa Suzuki, Mikiko Kojima, Yumiko Takebayashi, Daisuke Sugiura, Tsuyoshi Nakagawa, Hitoshi Sakakibara, Takushi Hachiya (2025) Shoot nitrate status regulates Arabidopsis shoot growth and systemic transcriptional responses via shoot adenosine phosphate-isopentenyltransferase 3. *Physiologia Plantarum* 177: e70542. <https://doi.org/10.1111/ppl.70542>.

・招待講演

令和7年11月19日（水）

東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 生物科学セミナー（ハイブリッド）

演題「植物の全身的な窒素源応答」 蜂谷卓士

・集中講義

令和7年11月19日（水）

東京大学理学部生物学科 集中講義（対面）

演題「植物の全身的な窒素栄養応答」 蜂谷卓士

◇ 実験動物部門 ◇

令和 7 年 7 月－12 月の活動と実施行事

1. 中四国地区実験動物施設協議会

12 月 19 日に、高知大学主催で中四国地区実験動物施設協議会が開催されたので参加しました。中四国の大学の実験動物施設の管理業務を行っている教員および技術職員が集い、以下のとおり議論を行いました。

(1) 「動物管理システム」(高知医療再生機構)

業務効率化と信頼性向上のため、中四国地区をはじめ全国の大学や企業(現 20 施設)が利用している高知医療再生機構の動物実験計画書審査システムに、新機能として動物入荷、動物飼育管理、動物実験管理および請求まで連携したシステムが構築できるようになったとして、具体的な紹介がありました。高知大学の実験動物部門の協力により開発されたシステムで、携帯アプリを使用して、利便性の良いシステムとなっています。

聞いたところによると、中四国地区の他大学は他社のシステムも含めると何らかのシステムを導入して運用しているとのことでした。しかし、本学は予算の制限から計画書審査システムさえも導入されていません。令和 6 年度の外部検証では、総合評価として本学の管理体制の遅れが指摘され、職員の作業負荷軽減と信頼性向上のためにこうしたサポートシステムの導入を強く推奨されました。情報収集を継続し、短・中期的計画として実装を進めていきたいと考えています。

(2) 高知大学における特徴的な実験動物

「地域特定和牛『土佐あかうし』」および「プレーリーハタネズミ」に関する研究の紹介がありました。非常にユニークな研究で、実験動物の福祉への取り組みと社会への貢献の実例として意義のある聴講でした。

(3) 各大学からの発表と討論

本年度は「動物実験施設が取り組む社会・地域貢献」というテーマで議論しました。各大学の報告からは、地域貢献を求められてはいるものの動物実験施設の業務役割から考えて一般的に地域貢献は難しいと考えられていることが窺えました。しかし、一部の大学では、県内高校で行われる動物実験の成果報告会にコメンテーターとして参加したり、高校生・専門学校生の研修会を開催したりしているようです。そうした機会は、職員が出身高校・専門学校などの活動を紹介したところから開始されているとのことでした。

2. 総合災害訓練

10月3日に出雲キャンパスで附属病院と医学部合同の総合災害訓練が実施され、医学部のシナリオ班として計画に参加するとともに、動物実験施設における防災に関する課題抽出のために実施参加しました。

出雲キャンパスの動物飼育室・実験室には非常電源がなく、施設が停電すると内部は暗闇になると考えられます。そこで、昨年、その対策として蓄光テープを飼育室内に貼り、危険個所を示すとともに避難経路を示すようにしました。今回はその効果を検証し、安全に避難できることを示すことを目的としました。

結果、蓄光テープは暗闇の中で光り、避難の助けにはなりました。しかし、①飼育室内の物品の配置イメージがないと弱い光だけでは何がどのようにあるのかわからず移動が怖い、②ドアの内側など日常的に光が当たり難い場所に貼った蓄光テープは光らない、といった課題があることが判明しました。今後課題を解決する対策を講じていくことにします。

3. 実験動物技術者協会(第59回日本実験動物技術者協会総会 in 山陰米子)

10月23日から25日まで第59回日本実験動物技術者協会総会が開催されました。今回、米子で開催されるということで、島根大学の実験動物部門の技術職員が大会の実行委員長(橋本春菜氏)や査読委員長(武智眞由美氏)を務めるなど、本学の技術職員も開催に大きな貢献をしました。

今回の技術者協会総会の山陰開催らしいトピックとして、近年、鳥取大学や広島大学が中心となり、島根大学も研究に参加し、中国地方の大学で新しい実験動物として開発が進められているイベリアートゲイモリがあげられます。総会前日に「イベリアートゲイモリ技術講習会」が開催されました。また、総会では教育講演も行われ、花井准教授も演者として参加いたしました。一般演題にも本学から発表しました。

5. 連絡事項等

(1)実験動物部門のホームページ(出雲キャンパス)

医学部ホームページにリンクされている実験動物部門のホームページの「学内の方へ」のページには、以下のような動物実験の実施に必要な情報が掲載されています。必要な提出文書の様式はこのページからダウンロードしてご使用ください。なお、情報は逐次更新されていますので、最新の様式を使用するようにお願いします。

ホームページアドレス <https://www.med.shimane-u.ac.jp/exanimal/>

「学内向け情報」(例)

- ・ 学内向けお知らせ
- ・ 実験動物の価格表
- ・ 実験動物部門の連絡先

- ・ 規則およびマニュアル
 - ・ 各種申請書、申込書
 - 動物実験計画承認申請書
 - 飼養保管施設設置承認申請書／実験室設置承認申請書／施設等廃止承認申請書
 - 実験動物の導入に関する申請書
 - 実験動物購入・搬入申込書
 - 教育訓練申請書
- ほか

(2) マニュアルの参照

動物飼育に関するルールと操作手順について、過去の説明会資料やマニュアルをまとめて、各飼育エリアに準備しています。動物を飼育するときには、必ずマニュアルに従ってください。

マニュアルは、実験動物部門のホームページ(出雲キャンパスのみ)のほか、SharePoint の「実験動物施設利用者のページ」のSOPs・マニュアルのページからも確認できます。こちらには、ビデオマニュアルもありますので、確認の上動物の飼育を適切に行うようにお願いします。

<https://shimaneu.sharepoint.com/sites/Department.Experimental.Animal/Shared%20Documents/Forms/AllItems.aspx?id=%2Fsites%2FDepartment%2EExperimental%2EAnimal%2FShared%20Documents%2FSOPs%E3%83%BB%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB&viewid=a4e26b60%2D0abd%2D45ec%2D8d13%2Dc4ad397750b1>

◇ 生体情報・RI 実験部門 ◇

<令和7年 7月～ 12月 行事報告>

- 7月 15日 放射線業務従事者の教育訓練（新規登録）
場所：RI 研究棟1階 実験室（1）
時間：13:30～16:00
- 7月 24日 第67回生体情報・RI 実験部門 運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～17:15
- 9月 1日～ 放射線業務従事者の登録更新教育訓練
e-learning
- 9月 18日 第68回生体情報・RI 実験部門 運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～17:15
- 11月 26日 第69回生体情報・RI 実験部門 運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～17:15

<令和7年 1月以降 行事予定>

- 1月 28日 第64回生体情報・RI 実験部門運営懇談会
Web 会議
時 間：17:00～17:15
- 開催日未定 Thermo Fisher Scientific 細胞イメージング顕微鏡 EVOS M3000 使用者説明会
場 所：共同研究棟2階 原子吸光実験室（予定）
- 開催日未定 McIlwain 切片チョッパ TC752 使用者説明会
詳細未定

<第1種衛生管理者試験 受験報告>

甲高彩華が第1種衛生管理者の資格取得のため受験し、合格しました。

月 日：令和7年7月19日

場 所：島根県民会館

受験者：甲高彩華

<第一種作業環境測定士（有機溶剤、特化物）試験 受験報告>

吉川光寛が第一種作業環境測定士（有機溶剤、特化物）試験を受験し、合格しました。

月 日：令和7年8月21日

場 所：中国四国安全衛生技術センター（福山市）

受験者：吉川光寛

<第一種作業環境測定士 登録講習（有機溶剤） 受講報告>

第1種有機溶剤と第2種有機溶剤に指定されている有機溶剤を使用する業務を行う指定作業場は、労働安全衛生法により作業環境測定士による定期的な測定が義務付けられています。今回、吉川光寛が資格取得のため、講習会に参加しました。

「作業環境測定士 実技基礎講習 C」、「第一種作業環境測定士 登録講習（有機溶剤）」

月 日：令和7年12月22日～24日

場 所：公益社団法人関西労働衛生技術センター（大阪市）

受講者：吉川光寛

<第40回国立大学法人生命科学研究機器施設協議会 参加報告>

施設会議には堺が参加しました。

月 日：令和6年11月14日

場 所：佐賀大学

◇合同会議

1. バイオイメージング施設連携と活動（顕微鏡の光学基礎実習）の紹介
2. 大学の垣根を越えて：オンラインで築く人材育成の新たなかたち
3. オンラインで挑戦！リアルタイムPCR 実習の実践と気づき
4. 教育研究はチーム戦！～人と機器が生み出す新しいつながりと現場力～
5. 遺伝子研究安全管理協議会（遺伝子協）の活動、その躍進と衰退

◇協議

◇情報交換会

◇合同発表会・技術研修会

- ①ポスター発表
- ②先端機器研修

◇施設見学

<生体情報・RI 実験部門運営懇談会>

生体情報・RI 実験部門運営懇談会を2ヶ月一度開催しています。後日、議事要旨を生体情報・RI 実験部門に使用登録されている方へ配信します。議事要旨をご覧になりたい方は、生体情報・RI 実験部門の問い合わせ先（メールアドレス：seitairi@med.shimane-u.ac.jp）へお申し込み下さい。議事要旨の電子ファイル（Word 文書ファイル）をメール添付でお送りします。

<生体情報・RI 実験部門の設備・機器を利用される方へ>

当部門の設備・機器を利用される方には、年度初めに分野毎に利用者登録をお願いしています。利用者登録に必要な申請用紙は、部門ウェブサイト上生体情報・RI 実験部門 HP（<https://www.med.shimane-u.ac.jp/CRLHP/index.html>）に電子ファイル（Word 文書、pdf ファイル）として用意されています。該当する分野の利用申請用紙を HP 上の「各種申請書ダウンロード」よりダウンロードして必要事項を記入の上、各分野の担当者へ印刷紙でご提出下さい。

高速超遠心機や高圧滅菌装置など一部の実験機器においては、初めて利用する方には必ず分野内の担当職員から操作方法の指導を受けていただくようにルールが定められています。

危険防止と快適な実験室環境を保つために、実験機器の取り扱い上の注意事項を遵守して、安全な取り扱いに十分留意していただくようお願いします。

また、使用済みの溶液などは放置せず必ず持ち帰って下さい。特に毒物・劇物に指定されている化学物質の使用に際しては、安全管理のために定められたルールに従って取り扱うようにご注意下さい。

機器を利用する際には、必ず各機器指定の使用簿に必要な事項を記入して下さい。一部の機器においては利用料金の負担をお願いしています。利用料金は四半期毎に各分野別に集計し、利用者の所属する講座等へ会計課を通して共通経費執行済額通知書が送られますので、講座等の経費からお支払いいただきます。

<共同利用機器の制御用パソコンを安全に使用するために>

部門に整備されている機器の多くには制御用パソコンが備えられています。機器を操作するためのパソコンでは、機器の操作に必要なプログラム以外は絶対に実行しないようお願いいたします。測定機器のメンテナンス、解析ツールの更新、パソコンの機能追加・変更などが必要な場合は、必ず担当職員にお問い合わせ下さい。

測定機器のパソコン HD に保存された計測データファイルの持ち出しに、USB フラッシュメモリ等の取り外し可能な外部記憶装置を使用する場合は、前もって利用者の責任において必ずウイルス検知・駆除ツールを用いて、安全性が確認された記憶装置をお使い下さい。

パソコンの動作がおかしい？ と思われた場合は、できる限り現状を保存して、担当職員へお知らせいただくようお願いいたします。

<オンラインによる機器予約システムについて>

生体情報・RI 実験部門に設置されている多くの機器は共同でご利用いただくため、一部の機器に関しては予約のための「オンライン機器予約システム (<https://www.med.shimane-u.ac.jp/CRLHP/reservation.html>)」を導入しています。予約システムにて予約必要な機器の確認をお願いします。なお、「オンライン機器予約システム」へのログインにはユーザーID とパスワードの入力が必要です。登録に関しては、原技術職員（内線 3061）まで問い合わせ下さい。また、退職等により予約システムの使用が不必要となる場合もご連絡ください。登録を解除します。

<部門運営等に関する問い合わせ窓口>

- ① 【松本健一】 e-mail : matumoto@med.shimane-u.ac.jp
電話 : 0853-20-2248 (内線 : 2248)
- ② 【堺弘道】 e-mail : hisakai@med.shimane-u.ac.jp
電話 : 0853-20-2524 (内線 : 2524)

お気軽に問い合わせください。

◇ 物質機能分析部門 ◇

【行事報告 & お知らせ】

1. 核磁気共鳴装置 (JNM-ECZL500) 利用講習会の実施について
2. その他、随時開催の利用講習会について
 - 1) 「寒剤の安全な取り扱い方」講習会の開催
 - 2) X線回折装置の利用講習会
3. 令和7年機器・分析センター協議会参加報告

1. 核磁気共鳴装置 (JNM-ECZL500) 利用講習会の実施について

日時：11月6日(木) 13:30～ 於 総合理工学部1号館521室・109室

令和7年度後期より利用を始めた教員・学生に向けて講習会を開催しました。内容は、液体試料のNMR測定的基础と安全に実験するための注意事項、使用ルールの解説です。次回は4月に実施の予定です。

2. その他、随時開催の利用講習会について

- 1) 「寒剤の安全な取り扱い方」講習会の開催

オンデマンドにより引き続き実施中です。新規に寒剤(液体窒素・液体ヘリウム)を取り扱う必要が生じた教職員・学生を対象に、寒剤の基本的な特性や安全に利用するため取り扱い方について解説しています。必要に応じて、随時受講してください。

島根大学 Moodle (2025 年度版)

コース名： 松江キャンパス「寒剤(液体窒素・ヘリウム)の安全な取り扱い方」講習

URL： https://moodle.cerd.shimane-u.ac.jp/moodle_2025/course/view.php?id=1388

登録キー： kanzai2025

上記 URL にアクセスしていただき、コースに登録して受講してください。ご指導学生にもご案内ください。

- 2) X線回折装置 (SmartLab および Rint Rapid II) の利用講習会

個別講習の依頼を常時受付しています。希望される方は遠慮なくご連絡ください。講習とは関係ないお問い合わせも歓迎しております。どんな用途に使えるかなど、興味がある方は電話やメールなどで、林までお気軽にお問い合わせください。具体的にお答え致します。

電話：0852-32-6122 (内線 3060)、email：thayashi@riko.shimane-u.ac.jp

装置のご紹介

・X線回折装置 SmartLab：(設置場所：材料エネルギー学部棟1階107室)

ヨハンソン型モノクロメーターと1次元型高速検出器により Cu-K α 1 単色の高分解能測定が可能で、主に粉末試料の定性・定量解析に用います。バルク試料もある程度の平滑部があれば測定可能です。K α 2 除去が不要となるため複雑な構造や複相材料でピーク位置が近いときに特に有用です。室温より高温域のみですが温度変化試験も可能です。ただし、装置の老朽化で多数の制約がありますのでまずはお問い合わせください。

・X線回折装置 Rint Rapid II：（設置場所：材料エネルギー学部棟 1 階 107 室）

大面積のイメージングプレートにより広範囲の回折情報を一回の撮影で取得できます。小径コリメーターを用いれば微小領域を指定して測定可能です。ただし、単結晶を用いた高精度構造解析はできません。ミリメートルオーダーで場所を指定しながら回折情報を取得できる点が最大の特徴となります。例えば、試料のある部分をカメラで指定しながら回折図形を取得できます。また大面積の二次元検出器を用いることから、照射範囲に数個以下の結晶粒しかない場合でも測定ができます。

3. 令和 7 年機器・分析センター協議会参加報告

令和 7 年機器・分析センター協議会

日時：10 月 10 日（金）9 時～17 時

場所：出島メッセ長崎（長崎市）

令和 7 年機器・分析センター協議会へ参加致しました。この協議会は全国の国立大学機器分析関連センターおよび大学共同利用機関の代表が集まり毎年開かれている会議で、機器分析関連の共同利用施設における運用上の諸問題や今後の社会貢献への展開などを討議する場となっています。討議の中心となるシンポジウムに加えて技術職員の交流も積極的に行い、共同利用を推進する立場から本国の科学技術の発展に寄与することを目的としています。本年度のシンポジウムのテーマは「教育研究基盤エコシステムの構築と大学の多様な未来像」です。以下のプログラムで開催致しました。

- I) . 「国立大学法人等の学術研究を取り巻く状況について」
熊谷 果奈子(文部科学省 研究振興局 大学研究基盤整備課 課長補佐)
- II) . 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)
～社会と大学の変革を実現させる岡山大学の挑戦～」 那須 保友(岡山大学 学長)
- III) . 「やってみてわかった!小規模だからこそ設備共用～北見工大との連携と外部評価～」
得字 圭彦(帯広畜産大学 共同利用設備ステーション長)
- IV) . 「研究開発マネジメント人材及び技術職員の評価、処遇、雇用等人事制度の
ガイドライン策定について」
大場 亮平(文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策推進室 室長補佐)
- V) . アンケート調査結果とエフォートテーブルの提案
- VI) . パネルディスカッション

ここでは、文部科学省からの講演を取り上げて紹介したいと思います。

I) . 「国立大学法人等の学術研究を取り巻く状況について」

中期目標・中期計画の第 5 期に向けて、まず大学を取り巻く環境についての共通認識が示されました。少子化が進行する時代において、持続可能な社会を実現するために大学はどのような役割を果たすべきかが重要な課題であり、教育の質の一層の向上と、学びへのアクセスの確保が求められているとの認識です。研究面では、研究開発を戦略的に推進するためのマネジメント人材が不足していることが課題として挙げられました。これに対し、大学や研究機関の枠を超えた機関との連携を進めることで、多様な研究の展開や人材育成につなげていく必要性が強調されました。さらに、イノベーション基本計画および総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）の方針に基づき、研究活動を持続的に支えるために、安定した運営資金の確保とコアファシリティの整備が不可欠である、また、研究者のみならず、事務部門、技術職員、URA などの専門人材の役割も極めて重要であるとの認識が示されました。科学の再興に向けた取り組みとしては、研究環境の改善を目的とした先端研究基盤刷新事業（EPOCH）が目を引きました。本事業では、大学の研究機

器の共同利用を促進し、産学連携で次世代型の機器開発や人材育成を目指すもので令和 8 年度から本格的に公募を開始します。今後 10 年で約 20 拠点の整備を計画しています。最後に、今後に向けた取り組みとして、組織改革や戦略的な設備活用の必要性が紹介され大学の機能強化につなげて欲しいとの考えが述べられました。

IV) . 「研究開発マネジメント人材及び技術職員の評価、処遇、雇用等人事制度のガイドライン策定について」

大学・研究機関における研究力強化を支える専門人材について、文部科学省では役割に応じた人事制度の整備を進めています。まず、研究開発マネジメント人材（URA 等）については、研究プロジェクトの企画・運営、外部資金の獲得支援、産学連携の推進などを担う高度専門人材としての重要性が早くから認識されており、本年度 6 月に評価、処遇、キャリアパス等を含む人事制度に関するガイドラインが策定されています。その内容や処遇改善の取り組みが紹介されました。一方、技術職員については、設備の共用化や測定・解析技術の高度化に対処し、先端研究を支える人材としての重要性が高まっているとの認識の下、研究開発マネジメント人材と同様に、評価の方法や人事制度についてのガイドライン策定に向けた検討が進められています。今後はガイドラインの整備・活用を図り、研究者を含めた多様な専門人材が連携して大学の研究環境の持続的な強化につなげていくことが期待されています。

全体として、設備の共同利用の拡充と研究を支える人材の確保により大学の機能強化を図るべきであり、そこを支援する施策を進めているとの内容です。今後展開される施策については、アンテナを張って可能なものについては応募を進めるべきと考えています。島根大学でも新規導入機器は基本的に共用の方針を打ち出し“共用”に対する意識は高まっているところであり、また、研究担当の斎藤副学長の下 共用機器の運用に関する制度の議論も進んでいます。コアファシリティの考え方を取り入れて、より研究者に使いやすい実験環境を構築できるよう一層邁進致しますので、皆様のご協力をお願い致します。

（文責 西郡）

< 島根大学研究・学術情報本部総合科学研究支援センター >
センター通信 第 50 号 (2026 年 1 月)

◇ 編集後記 ◇

総合科学研究支援センター広報誌「センター通信」第 50 号を発行しました。
センター通信を通じて、有意義な情報発信ができるよう努めたいと思います。
誌面の充実のために、学内の技術や装置の紹介など、幅広い範囲の話題を募集しています。掲載をご希望の方は、下記の編集担当までお問い合わせください。
「センター通信」の編集には多くの方々のご協力をいただきました。
ここに厚く御礼申し上げます。

2026 年 1 月

編集担当: 蜂谷 卓士

総合科学研究支援センター 遺伝子機能解析部門

問い合わせ先メールアドレス: takushi.hachiya@life.shimane-u.ac.jp